

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4170101036		
法人名	有限会社 介援隊		
事業所名	グループホーム愛らんど		
所在地	佐賀県佐賀市蓮池町大字小松843番地2		
自己評価作成日	平成25年1月20日	評価結果市町村受理日	平成25年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成25年2月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

和気あいあいと最期まで楽しく美しく温かい生活をモットーに、手作りパック・手作りローション・美顔器を用いて、みんな笑顔で楽しくきれいになれるホームづくりを目指している。正看護師をスタッフに配置しグリーンクリニックと24時間のオンコール体制を取り、利用者様が安心して暮らせる体制を整えている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

管理者が生まれ育った地元でホームを開業されており、地域住民とは以前より顔見知り関係は深く、行事ごとはもちろん、日常より交流があり地域に開けているホームである。川の北側に位置し、全室南向きで日当たりがよく、四季折々の景色を眺めることができる。また手作りのパックやローションで入居者、スタッフが一緒に肌の手入れを楽しみながらされている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月10日の職員会議兼勉強会に理念に基づいた取り組みが来ているか、検討している。また、理念は利用者や家族の目につきやすい玄関に掲示している。	職員会議や勉強会の際に”地域との関わりを大切にし 和気あいあいと暮らせる グループホームを目指そう”という理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関わりを大切に考え、地区の運動会、公民館での催事には、出来るだけ多くの方々の参加をお願いしている。昨年5月には6周年記念イベントを開催し地域の方にも参加してもらい交流をもった。今年5月に7周年記念イベント計画中	創立記念などのグループホーム行事に地域の方が参加できるよう働きかけられている。また行事以外でも日頃から気軽にホームに行き来できるような関係を築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に手作りパック、手作りローション、手作り洗剤を作り体験してもらっている。脊髄活性化法を体験してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域包括支援センターの職員に参加してもらい、サービスの向上に努めている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員や家族、地域の自治会長などが参加され、そこでは活発に意見があり、それをくみ取り日々のケアに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の保護課、地域包括支援センター、佐賀中部広域連合等に相談しサービスの向上に努めている。	行政機関にはよく足を運ばれ担当者と密に連携を取られており、不明な点の確認やケアの相談などを行い、質の向上に努められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	命の危険を感じた場合は、家族等から身体拘束の同意書を頂きますが、それ以外は絶対しません。	入居時に、身体拘束同意書を全入居者に説明し同意を得られている。また、家族の意向等により、安全上やむを得ず、ベット柵を4本使用されている。	身体拘束は、緊急時やむを得ない場合、一時的に同意を得て行われるものである。やむを得ない場合の身体拘束の手順を確認され、適切に行われることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に学んだことを職員会議等で、報告、言葉の虐待について話し、該当者に改善を要請した。防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の家族に成年後見人制度について、佐賀家庭裁判所に書類を提出受理され、登記が完了された。 ほかの家族にも成年後見人制度について説明した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、時間の許す限り、ゆっくり読み上げ納得されたか確認してから署名捺印をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者がいつでも外部との連絡が取れるよう、また電話、家族、親戚、友達等に意見、不満、苦情を確認、反映できるよう心がけている。	家族には適宜生活状況を報告され、運営推進会議以外にも面会時に積極的に関わりをもたれている。また入居者が電話をしたいときはいつでも掛けられるようにされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月10日の職員会議兼勉強会で運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、職員が意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。	会議や勉強会のときに、運営に関すること等どのようなことでもスタッフの意見を聞くよう管理者から働きかけられており、スタッフから活発に意見があがり、くみ取られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務に関し、希望休みを取り入れ、ゆったりと仕事に就き看護師、家政婦経験者、エステティシャン、異業種から等、年齢、環境の違った個性を活かした意見を取り入れ、それぞれの個性が活かされるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加してもらったり、新人職員には施設長や経験の長い職員が付いて、個々のペースをみながらOJTをすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会加入や佐賀県複数事業所連携によりネットワーク作りや勉強会、相互訪問、研修等の活動をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホームに来てもらい、必要としている支援について、本人から聴けるよう、家族、職員を含め話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず、職員、環境、雰囲気馴染んでもらえるか、家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをしっかり聞きだせるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、職員会が一体となって、必要としている支援を見極められるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、入居者が安心して職員と共に支えあえる関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との交流を密にして、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	どなたでも、面会に来てもらえる環境作りに努めている。 本人が希望する場所に、出来るだけ一緒に行くよう努めている。	家族や知人の方がよく面会に来られており、その際はお互いに楽しめる雰囲気作りに取り組まれている。また、入居者が自宅など希望される場所への外出支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく日常生活が出来る環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁があり、ホームと関わっていても、入院、死亡はつきもので、家族にとっては、思い出の場所であり、いつまでもご縁を大切にしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人や家族から、希望される暮らしを聞きとっているが、毎日本人の様子を見ながら支援している。	日頃よりコミュニケーションの中から入居者の意向を引き出されている。意思疎通が困難な入居者は家族からの情報や、声かけに対する表情やしぐさから思いをくみ取られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等から出来るだけ多くの情報を引き出し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動、バイタルチェックを重視し、総合的に把握できるよう、申し送り、職員会議、勉強会で話し合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりスタッフが担当し、本人、家族等の意見を取り入れた介護計画作成に努力している。	本人の生活がより良いものになるようにと、本人や家族の思いを担当者がくみ取り、ケアプランに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の記録に、本人の行動、言葉なども書き入れ、職員の言葉かけも記入することにより、本人の様子がよく理解でき、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物、病院、自宅への帰省、外出、その他本人、家族等の要望があれば出来る限り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の訪問等、ボランティアの受入れも行い、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医と地域の医院との契約により、定期的な医療が受けられる。24時間安心した生活が出来るよう医療の協力体制を取っている。	協力医の定期的な往診以外に、毎朝・夕に協力医療機関から看護師が訪問し、健康管理が行われている。また、以前からの主治医を希望される場合は、その医療機関と連携をとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グリーンクリニックと委託契約で週一回の健康管理、正看護師を職員として配置、適宜、最適なケアを受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問医、地域の医院が医療連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問医、看護師、地域の医院により、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。今現在、二人の方がターミナル期を迎えており、その方らしい最期を迎えられるよう支援している。	入居時に重度化した際、ターミナル期についての指針を説明され、スタッフと家族、医療機関と連携し、より良いターミナルケアができるよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の職員会議、勉強会等で初期対応の訓練をしている。 今後、消防署より来ていただき研修、指導を受けたいと思っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練等、災害時における避難誘導の実施、地域の人々による協力をお願いしている。	防災訓練を月に1度行い、不測の事態のときに避難ができるよう取り組まれている。また年に2回消防署も一緒に訓練をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のため、個人情報の取扱いについては、その都度承諾を得ている。 1人ひとりの尊厳について理解をするため研修に参加し、言葉かけや対応に心を配っている。	入居者の尊厳を損なわないよう声かけに注意され、接遇についてホーム内で勉強会を行い、日々気付いたときにその場で注意をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけを大切にし、尊厳ある生活の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで、自由に暮らしてもらえよう、清潔、衛生面に配慮し整理整頓をし、理容、美容は本人の望むようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ターミナル期の方でも、手作りパック、手作りローション、整容し、最期までキレイでいられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	和気あいあいと皆と一緒に楽しくしている。 普通食、全粥、粗刻み食、刻み食、ミキサー食、トロミ食等、残存能力に合わせてお出ししている。	野菜の皮むきなどの料理の下準備をスタッフと入居者とともにされ、食事は一緒に摂られている。また入居者の嗜好調査を行い、好みに合わせた食事の提供ができるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師から見た気づきなども、バイタルチェック表に記入し、一人一人に応じた状態や力を管理し栄養バランスが取れるよう支援している。好きな時に摂取できるように、声をかけてお茶を飲んでいただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の口腔衛生を保つために口腔ケア用ジェルを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に対して支援が必要な方には、その方に合った対応を行っている。バイタル表に排泄の記録を記入し、排泄のパターンを支援している。	一人ひとりの排泄パターン表をつくり、入居者の排泄リズムに合わせ誘導を行い、自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、果物、繊維質の多い野菜等の摂取により便秘の予防に取り組んでいる。それでも出ない方には水分を多く取ってもらったり、便を柔らかくする薬を服用してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間、入り方も自由で、本人さんが入浴を楽しめるよう配慮し、感染予防のため、一人ひとりお湯を入れ替えている。	入浴は時間や回数など入居者の意向に沿って行われている。車椅子の方でも安楽に入浴できるようにリフト浴の導入を検討されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は、布団を天日干しにし、毎週、枕カバー、シーツ、布団カバーの交換をし、汚れた時は随時交換している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の確認を常に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った役割を支援し、望まれることを聞き出し、出来るだけ気分転換や刺激のある生活を送ってもらえるよう外出を促し、楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に応じた戸外に出られるよう支援している。また、お誕生日には希望される所へ出かけられるよう支援している。	日常的に近隣の散歩や老人会の参加などを行っている。地域とのつながりがあり、散歩中に挨拶をしたり、一緒に公民館に行かれている。また、入居者の希望を把握し、自宅などへの外出支援に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を持たない指導を受けており、希望する物は、家族の承諾を得て買い物に行きます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの電話の取次ぎ等、自由に外部との連絡が取れるようにしている。 愛らんど便りを作成し、遠方でなかなか来れない方にも月末に手紙を添えて近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を全室南側にとり、廊下、リビング、に天窓を作り、廊下、トイレ、浴室、脱衣室を広くとり、天井も高く威圧感を無くし、季節感を取り入れるようウッドデッキを南側に作りました。	廊下やリビングにある天窓から光が入り、室内は明るく、南側のウッドデッキからは菜の花やススキなど四季折々の風景を眺めることができ、季節感を感じやすい共用空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節に応じてソファの位置を変えて、利用者同士が過ごせる居場所を確保している。 好きな時に自分でお茶を入れて飲めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重度化した利用者も1人部屋で寂しくないよう、一段高くなっていたリビング横の和室をバリアフリーにし一緒に過ごせるようにしている。	家具や仏壇など慣れ親しんだ物は自由に持ち込め、家族等の写真の掲示もでき、入居者が居心地良く過ごせるよう配慮をされている。また、居室のコンセントの位置や押入れの高さなど入居者が使いやすいように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	和室をフローリングに改装することにより自由に自分の思ったよう行動できる環境を作りました。		